令和２年４月24日

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校　平成30年度学校評価
につきまして下記の通り評価結果を報告します。

記

１．委員　　総合医療センター事務部長　津久井一浩（委員長）
　　総合医療センター副院長兼看護部長　井岡京子
　　社会福祉法人　埼玉医大福祉会　理事長補佐　手嶋顕久
　　同窓会　会長　中村恵津子

２．開催状況
　１）会議名　：　第１回　学校関係者評価委員会
　２）開催日時：　令和２年２月14日（金）14:00～16：15（２時間15分）
　３）開催場所：　本校　１階会議室
　４）出席者　：　①委員（４名）
　　津久井一浩、井岡京子、手嶋顕久、中村恵津子
　　②学校（３名）
　　中村美智子、小﨑妙子、田中律子
　　書記（１名）　　参加者合計　８名

３．　議題等　：
　１）校長挨拶　（校長欠席のため代理：副校長挨拶）
　２）出席者紹介　（事務長）
　３）平成30年度自己点検・自己評価結果説明　（副校長、教務主任、事務長）
　　平成30年度事業計画・事業報告、学校自己点検・自己評価結果の説明
　４）意見交換
　　説明についての質疑応答、改善点等について討議の議事録（詳細は別紙１・２）
　５）施設見学
　　校内、設備等視察
　６）今後の予定
　　５月の理事会で委員会報告
　　次回の会議日程　令和２年６月頃に令和元年度についての学校関係者評価委員会開催予定

平成30年度学校関係者評価委員会報告書

埼玉医科大学附属総合医療センター看護専門学校

(表示の①は自己点検　②は学校関係者評価)

（1）教育理念・目標　　2.8

①教育理念・目的は明確であり、卒業時の到達目標も目的に沿った内容である。また、アクティブラーニングやシミュレーション教育等を取り入れた授業の工夫はなされている。しかし、理念と科目の関連性や各科目間での不足や重複内容の検討が不十分である。

②教育理念と科目の関連性の評価・検討を論理的に行うのは難しい。理念を具現化し「どのようなアプローチ（授業・道徳教育・自主的活動等）をしていくのか」の大枠を定め整理していけば、自己評価は十分上がると考える。

（2）学校運営　　3.1

①卒業生像は明らかになっているが、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについては明文化する必要がある。学校運営に関しては、学則に沿って教員会議で検討し、校長報告後決定しているので適正であると考える。

②中期運営計画として5年程度の体系的な計画を策定していくことで今後の学校運営の指針となる。また、各係ではなくできる限り組織に権限を持たせるような運営の方が方針が明確になる。

（3）教育活動　　2.8

①学校として一番重要な教育活動については、育てたい学生像を達成するための科目だてになっていない部分もある。シラバスの見直しを行い、各科目を受講することで学生のどの能力が培われるのかを明確に記載する必要がある。卒業時に身についた能力を測り、卒後1年目の能力の獲得状況を比較することで学生の成長が明らかになる。そして、当校の基礎教育の成果がそこに反映されると考えられる。

②シラバスの書き方の工夫をすることでどの能力を培うのかが明確にできる。卒業時と卒業1年後の能力の比較を現実的にどのように実施するのかは、理想であるが、こだわる必要もないのではないか。また、模範解答の提示、答案用紙は学生に返却すべきだと考える。

学生に試験の点数を伝えていないのはよくない。留年・退学となった時に、情報をきちんと公表していないと問題となり得る。点数があるものはわかりやすいが、主観的評価（実習の評価など）は納得性があり透明化しておかないとリスクがある。組織として評価を決めるプロセスはどうするかということを決め、複数で評価してその結果を学生にフィードバックしないといけない。

臨床の講師が決められた時間を講義せず終了することについては、臨床の先生には最新の情報を教えてもらえる利点はあるので、これからも一人の講師に通しで講義していただけるよう依頼し続けていくしかない。総合医療センターは教える側が臨床医なので診療中心でなかなか時間が取れない事実もあるが、座学の講義ではきちんと時間を守って授業をしていただかないと困る。

（4）学修成果　　3.0

①就職については附属病院の就職支援を行っており、目標である卒業生の 90%以上は維持できている。今年度の退学者率 4.9%は改善の余地を残すところである。健康上の問題、学力不足による進路変更がその理由に挙げられる。

卒業生の社会的評価をみるための就職先への状況調査は行っていない。卒業生の評価は学校の評価に通じるので今後の検討課題である。

②退学の理由が明確でないと思う。もう少し詳細に表示した方がわかりやすい。埼玉医大グループに多くの学生が就職しているので、卒業生の社会的評価は看護体制や質の評価で代替えできるのではないかと考える。

（5）学生支援　　3.2

①学校保健法に基づく健康診断を 1 回／年実施している。インフルエンザ流行時も実習病院と連携しながら対策を講じて拡大防止に努めている。また、月に 2 回臨床心理士による学生相談室を設け支援している。学生の自治会活動には支援教員 2 名を配置している。学生の主体性に任せたいところだが、教員に依存的な傾向にあるので、主体的に企画、実行できるような支援方法を考える必要がある。

②在校生との意見交換会を 2 月に実施した報告の中で、試験の点数の開示をしていないことについては開示すべきである、それが評価の透明性につながるのではないか。また、個々の学生に合った支援を通じて、自主性を育むきめ細やかな対応が必要ではないかと考える。先ほど、退学率が 4.9%と高かったが、態度面の評価等が本当に妥当なのかと思うし、教員は 3 年間で看護師として不向きかどうか教員の思いや熱意は入れなくてよいと思う。入学させたのだから、きちんと教育し卒業させることが大切である。

（6）教育環境　　3.3

①施設については、築 16 年を経過しているが、校舎・設備には問題なく管理されている。

また、最新のシミュレーター等も購入でき、シミュレーション教育の導入に繋がってくると思われる。教育用具は、数も種類も豊富にあり、演習などは円滑に行なえている。

防災・安全管理体制については、運用出来ているが見直しをして、よりセキュリティが高まるようにしていくことが必要である。

②教育環境は、構内見学してみてとても良い環境であると思う。

（7）学生の受入募集　　3.0

①学生募集に関しては、昨年度よりオープンキャンパスを 1 回増やし、年 6 回実施した成果もあり、入試志願者も 4%増えた。入学者の傾向については、データ分析等が必要となってくるため、今後取り組んでいきたい。

②学生受入募集に「学習習慣のついている学生の確保」とあり、退学者は学習習慣がついていなかったのかと思ったが、退学理由をみると「学習意欲喪失」「進路変更」等結びついていない感じがする。看護専門学校なので、入学生の選考には学習習慣の有無だけでなく、将

来的に看護師として向いているのかどうかの視点も必要ではないか。中には、親の意向で受験している学生も多いのではないか。
入学後に、「学習習慣をどのようにつけさせるか」が学校の本来の目的であり、目標として設定する必要があると考える。

（8）財務　　2.6

①財務に関しては、予算通りに遂行している。今後は財務担当者との連携が検討される。
今後は、目標に沿った予算案作成と計画的な執行管理を行なう必要がある。

②財務の評価が低いが、評価基準書のチェック項目に沿って評価すると低いということか。もう少し高く評価していいのではないか。当校の場合は、トータルとして総合医療センター経理課が管理しているので、学校として財務管理をしているという評価でよいのではないか。繰入収入は収入であるし、経理購買課で厳しいコスト管理も受けているので、チェック項目に対し再点検をしたら評価も上がるのではなか。

（9）法令等の遵守　　2.0

①平成26年度から教育活動の内容全般の成果を年報でとりまとめ、関連施設、県内看護学校に送付して公開している。授業評価については昨年度より専任教員1科目につて実施しているのみであり、本人以外には公開していない。　評価が低い原因は、自己点検・自己評価の結果の公表をしていないことと、学校関係者評価を実施していないためである。

②授業評価は、学生アンケートを通じて積極的に行うべきであり講師と学生の対話により、良い授業になっていく。情報公開を通して、いかに学校運営の透明性を確保するかが重要、学校にとって都合の悪い情報であっても、公開することで肯定的に受け止められることも多い。また、原則公開することで日頃の事業運営の適正化がより推進されると考える。
ただし学校に対する批判であっても建設的なものは良いが、単なる誹謗中傷については公開しない。

(10) 社会貢献・地域貢献　2.5

①地域交流については、施設、関連機関との交流はできているが、地域の方々との交流をどのように深めるのかは課題として残る。具体的には地域の方々へ文化祭のお誘いを工夫して来校者の増加を目指す。また、地域の防災訓練などに参加できるように検討する。
また、学生ボランティアについても積極的に奨励した。臨地実習施設の行事の参加やさいたま国際マラソン、東京マラソンのボランティアに参加した。

②隣接している、医療型障害児入所施設「カルガモの家」などの行事や花壇の花植えや入所児の外出の際の補助などのボランティアなどもぜひお願いしたい。

＜今後の課題としての意見＞

1．　入学生が卒業できない現状があることについては、入学させたのだから退学率を5%以下にするように努力するのは学校として当然だと思う。

2．　学生の意見を意見交換会で吸い上げようとしている姿勢は良いが、学生の意見はわがままと思う部分もあるが、教員は真摯に受け取る姿勢が大切であると思う。

3．　評価については、特に態度など、主観で評価する際は慎重にすべきである。また、項目を細かくすることで学生の納得が得られると考える。例えば「コミュニケーション能力が低い」だけでは納得できないと思う。具体的に何が欠けているのかを明示し指導する必要がある。

4．　財務については、本学は総合医療センターの付属機関であり、財務面は、総合医療センターの経理課が行う体制となっている。予算の編成や執行状況等は常に管理されており、特段の問題はないと考えている。